

# ソーシャルな農業

## 若者たちが社会課題を乗り越える

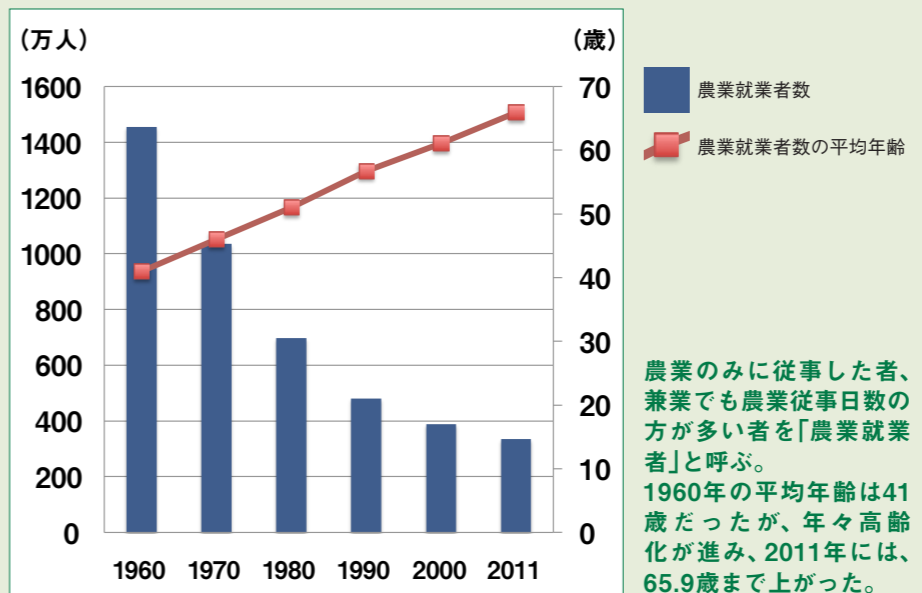


【坂ノ途中】小野邦彦・代表。事務所1階の直営店舗で

ソーシャル・ビジネスの目的が社会変革や社会課題の解決だとすれば、「農業」は日本にとって最大級の社会課題だろう。農業従事者の平均年齢は65歳を超え、耕作放棄地は全国規模で広がっている。この難問を解決しようと、若者たちが立ち上がった。

ジャーナリスト=高馬卓史

### 農業就業者数と高齢化の推移



農業のみに従事した者、兼業でも農業従事日数の方が多き者を「農業就業者」と呼ぶ。1960年の平均年齢は41歳だったが、年々高齢化が進み、2011年には、65.9歳まで上がった。

【農林水産省 農業構造動態調査】などを参考に編集部で作成。1960年から1980年の平均年齢は、基幹的農業従事者。1990年以降は農業就業者。

### 「耕作放棄地」をなくす

京都に「マイファーム」(下京区)という会社がある。この会社は、体験農園を日本全国各地に拡大する事業を展開している。会社の理念は「自産自消」であり、「耕作放棄地をなくすこと」だ。

同社ファウンダーの西辻一真氏(30)は語る。「この会社を始めたきっかけは、高校時代、通っていた学校の目の前に広がる耕作放棄地の姿でした。幼いころから野菜作りが大好きだったので、何で田畑が無残に放棄されているのだろうと思っ

ていたのです。だから、何とか耕作放棄地をなくしたかった」

そのための手段として、体験農園を思い付いたという。「せっかくの農地が放棄されているならば、市民に開放すれば良いのではないか」。

大学卒業後、IT系企業に1年間勤めた後、温めていた構想を実現すべく、2007年に会社を設立、事業に乗り出した。当初、体験農園のために耕作放棄地を貸してくれと言っても、農家からの理解はなかなか得られなかった。法的には不可能ではないが、農業委員会に申請する時に「体験

農園」という承認項目はない。企業が事業として自ら農業をするならば問題はないが、企業が農地所有者と市民の間に介在して、いわば「又貸し」のような形で市民に農園を提供することはできない仕組みになっているのだ。

だから、農家が体験農園のオーナーとなって、同社は、体験農園希望者の募集業務や、「管理人」と呼んでいる体験農園のコーチ役の人をサービスとして提供し、その業務代行料、サービス料を農家からいただく、フランチャイズ的な展開をせざるを得なかったことが理解を得るのを妨げた。しかし、設立から5年、関東にも進出し、いまや体験農園は約80カ所に増えた。ちなみに「又貸し業」なので、体験農園の希望者さえ集まれば、経済的リスクはなく、会社は黒字になっている。

「マイファームアカデミー」で実践的なノウハウを身に付けた人の就農支援だ。

「今は、コディネーターとして、マンツーマンで就農相談に乗っています。希望地の耕作放棄地を調べ、農地所有者と一緒に面会に行き、農地を貸してもらい、あるいは売ってもらいように頼んで回っています。今、70人程度の方のお世話をしています」と西辻氏は語る。

しかし、西辻氏の夢は、あくまでも耕作放棄地をゼロにするのと、そのために農業従事者を増やすことだ。目標は2014年までに、家庭菜園を始める人を含めて、農業に携わる人を1200万人にすることだ。西辻氏は「実現できるはず」と笑顔で答えた。

### 有機農家の販路を開拓

同じ京都で、有機野菜に取り組み若手農家・新規就農者の「販路支援」に乗り出した会社がある。「坂ノ途中(南区)だ。同社が掲げる理念が「未来からの前借り」を、やめたい。

農業や肥料に依存した農業では、「今」の収穫量は増えるが、

100年後の豊作を期待できるのかという疑問だ。

農業は殺虫剤でもあり、他の生物を排除してしまう。農薬を使用することで、野菜に栄養分を供給してくれる微生物がいなくなり、農地は「痩せた土」になっていく。そうなれば、ますます化学肥料に頼らざるを得なくなり、環境負荷が高まる一方の悪循環、これが「未来からの前借り」だ。

2009年、同社を立ち上げた小野邦彦氏(29)は、様々な人に会い、共感者が大勢いることを知る。一方で、厳しい現実にも直面した。「同世代の若手農家で、農業、化学肥料に頼らない農業を実践している農家を訪ねていくと、農業では食べて行けず、バイトをして何とか生活を成り立たせているという、あまりにも悲惨な実情があります(小野氏)」

そこで気付いたのが、あまりにも販路がないことだった。このような農業では、生産量は少なく、しかも不安定なので、既存の流通ルートでは、ほとんど相手されない。小野氏は、自分の役割は、彼らの販路の開拓だと気付いた。「最初は、学生時代にアルバイト



上:「マイファーム」西辻一真・ファウンダー 下:全国約80カ所に拡大する「体験農園」

